

# 法政就業力通信

## ～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

## グローバル人材の呪縛を超えて

教授 藤村博之（ふじむら ひろゆき） プロジェクトリーダー



### 英語を話せればグローバル人材になれるか？

グローバル人材の育成が日本社会の急務だと言われます。大学においても、グローバル人材という言葉を書かない日はないくらいです。でも、グローバル人材とは、どんな能力、資質を持った人材なのでしょう。

多くの学生は、外国語(英語)を自由に操れることがグローバル人材の第一の要件だと考えています。企業の採用試験において、「TOEIC で〇点以上」という項目が基準の一つとして掲げられていることもあって、学生たちは「英語ができないと満足な就職ができない」と思ってしまう。

しかし、TOEIC で 900 点以上の点数を取っているのに大事な仕事を任されていない人はたくさんいます。他方、英語はたどたどしいけれど、重要な案件を次から次にまとめて結果を出している人も数多くいます。英語はコミュニケーションの道具であって目的ではないこと、外国人と仕事をしていくには自分の中に語るべき内容を豊富に持っていることなどを学生にしっかりと伝えなければなりません。

### 日本人が外国語下手なのは世界標準

私たちには、外国語コンプレックスがあります。特に、それは英語に対して顕著です。でも、人口規模が 5000 万人以上の国に暮らす人たちは、おしなべて外国語が不得意です。おそらく世界中で最も外国語が下手な国民はアメリカ合衆国の人たちです。彼らは、自国の言語を使って世界中で生きていけるので、わざわざ外国語を覚えようとはしません。

ヨーロッパでは、ドイツ人、フランス人、イギリス人、イタリア人が外国語下手の人たちです。国内マーケットが大きいので、自国の言語だけで十分仕事をしていけるからです。他方、ベルギー、オランダ、デンマーク、スウェーデンといった国の人たちは外国語がとても上手です。それは、国内市場が小さいので、他の国々と交易しないと生きていけないからです。

日本は、1 億 2800 万人の大きな国です。日本人が外国語下手なのは、世界標準からいうと当然です。日本は貿易立国だと言われますが、GDP に占める輸出の割合はせいぜい 1 割強でしかありません。外国語を話さなくても十分に生きていけるだけの経済規模を持っています。

### 真のグローバル人材になるには…

外国人と話をしていて最も多く質問されるのは、日本のことです。日本の社会、政治、経済、文化など、いろいろと質問されます。それらの間に一定の答えがでなければ、「この人と話しても得るものがない」と判断されてしまいます。

グローバル人材に求められる要件は、自国のことを他の国の人理解できるように説明できることです。そのためには、日本のことを知り、相手の国のことも知っていなければなりません。日本語で話せないことは英語でも話せません。まずは、日本語で説明できるようになることがグローバル人材への第一歩だと思います。

#### 略歴

84 年名古屋大学大学院卒

京都大学博士(経済学)。

84～89 年京都大学経済研究所  
助手、90～97 年滋賀大学経済  
学部助教授・教授。97 年～03 年法政大学経営学部  
教授、04 年～IM 研究科教授。

e-mail:

[fhcdc@hosei.ac.jp](mailto:fhcdc@hosei.ac.jp)

研究室は新一口坂校舎4F



**略歴** 法政大学大学院経営学研究科キャリアデザイン学専攻(修士)卒業後、法政大学大学院政策創造研究科博士後期課程に進学。  
2011年3月、同博士課程中退。

## カイゼン・カイゼン

**特任教員 白井 章詞 (しらい しょうじ)**

夏休み、前期の授業を履修した学生に対して、ヒアリングを実施しています。大規模授業であれば数名、少人数の授業であればなるべく全員に会って、授業の問題点や改善点を聞いていきます。地道な作業ですが、授業改善につながるヒントが思いのほかたくさん得られます。例えば「就業応用力」であれば、「最初にどのくらい厳しいのか、授業時間外の活動頻度などを出来る限り伝えること」であったり、「就業基礎力」であれば、「教員によるフィードバックを充実させること」などです。こうした些細な改善の積み重ねは、授業評価(FD)の結果においても、学生の授業満足度を高め、学習時間も飛躍的に向上するなど、目に見える成果として表れてきています。これからも、より良い授業を目指して、継続的なカイゼン活動に取り組んでいきたいと思っています。



**略歴** 70年慶応義塾大学経済学部卒。  
70~06年伊藤忠商事(株)勤務、06~11年帝京大学と法政大学職員。  
11年~法政大学教員

## 関心を広げ、考えを書く！

**特任教員 有田 五郎 (ありた ごろう)**

「文章力」を高める授業で、学生達に新聞のコラムを読み、その要点を掴むと共に自分はどこに共感するか、あるいは違和感を感じるかを加えた文章にまとめさせた。いろいろなジャンルの多くの記事を用意して、自分に配られたものに取り組みさせた。各自が書いた内容をグループワークで披露し合い、自分の文章で自分が伝えたい内容を仲間に掴んでもらえたかを実感させ、そして留意事項をお互いに検討する事を目的としたものである。自分の文章のくせや問題点に気付くだけでなく、どう文章を書けば相手の理解に繋がるかを討議した。授業内で真剣に取り組む姿勢を見つ、もっともっと社会で起きている事に関心を広げて、それに対する自分の考えを持ち、それを文章にするという訓練を重ねてもらいたいとの想いを強く感じた。



**略歴:** 日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

## 少人数教育の効果

**特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)**

授業の成果が受講者人数に大きく左右されることは言を待たないかと思いますが、春学期の期末試験(「キャリアデザイン入門」)の採点結果からも数値で明らかになりました。試験内容は授業で話したことの理解を求めるやさしいもので、3コマの授業での受験者の結果(平均点)は以下の通りでした。( )内は受験者数で、16点満点です。

- ・月曜日2限(86人) ⇒8.13
- ・火曜日4限(143人) ⇒6.81
- ・火曜日5限(66人) ⇒8.97

授業を観察していると、人数の他に受講しているクラスメートとの交流の深さ(熱心な仲間が集まる授業か否か)も大きく影響していそうなので、また分析調査してみたいと思います。

### ◆ セブン・イレブン産学連携講座

法政大学産学連携 3D 教育プロジェクトでは、セブン・イレブン・ジャパンとの連携により、産学連携講座「THE PROJECT 1 DAY」を開催いたします。流通業界のしくみやマーケティングについて学び、企画の提案等も行います。学生のみなさんにとって、企業や社会のしくみを理解する良い機会となります。連携7大学から参加者を募集します。

### ◆ 編集後記 : 先日、大学コンソーシアム京都のSDセミナーに行ってきました。テーマは「実践知」。午後のプログラムでは「京都花街、舞妓さんの実践知に学ぶ」というグループワークに参加しました。舞妓さんに会えるう！と喜んで参加しましたが、実際は花街を研究をしている京都女子大の西尾先生のお話でした(涙)。

西尾先生によると舞妓さんの世界は、新人をいかに早く一人前の舞妓として戦力化するかについて、OJTを中心とした評価・育成システムが見事に成立しているとのこと。また、お座敷のレベルによって、各花街からプロジェクトチームが編成されるため、「化粧」や「着物の着方」などによって、その舞妓さんの「技量」や「経験」が分かるようになっており、リーダーは瞬時にメンバーを最適な役割・配置につかせることができるらしいです。まさに「お・も・て・な・し」のプロ集団ですね。最後に舞妓さん言葉をひとつ「そのままほっとくのが恥ずかしいことや。みなさん意味を考えてみてくださいね。 < 事務局: 平山 >

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局: 学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3dep.hosei.ac.jp/>

産学連携 **3D** 教育プロジェクト